

熟練の技術で 顧客のニーズに応える

納期相談
コスト相談
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産対応



最新マシニングセンター（MC）が並ぶ工場内

業務内容 金属・樹脂のトータル加工

「上陽精機」は、マシニングセンター（MC）、精密平面研削盤、フライス盤などを活用し、機械部品の精密加工を手がける。鉄や銅、アルミ、ステンレス、樹脂など幅広い素材を仕入れ、多品種少量の部品加工、試作に短期で対応する。平成2年の創業以来、主に大手家電メーカーの生産ライン向けに機械部品の切削加工を請負い、現在では大手家電メーカーを含む約15社と取引している。

平成27年には機械を導入するスペース確保のため、現在の本社工場へ移転した。平成29年4月には技術者1名が入社した。

強み 最新鋭の機械で高精度と 短納期を実現

加工の高精度と短納期を強みとする。最新のMCで公差は±1mm〜2mmを実現。鉄材を主とした40〜50種類の在庫を常備し、焼き入れ済みの素材も在庫として抱え、短納期に対応できる。在庫として保管する材料の切削加工から、完成形の部品を納品するまでの一貫生産体制を敷いており、高品質の維持に努めている。

顧客のニーズを捉え、自社で加工可能な部品は一貫して請け負う提案も手がける。西海敏美社長自らトップセールスに赴き、「二品一様の部品に熟練の技術で応える」強みを訴える。

設備増強 最新MCを導入

部品の加工量を拡大するため、平成26年から3年間で導入した3台のMCに加え、平成29年11月にも最新のMC1台を導入。

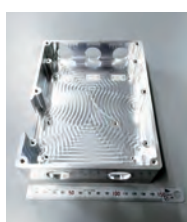
MC4台、精密平面研削盤1台、フライス盤1台などを現場の4名の技術者が担当する。

「現場の意識を高める」工夫にも約1年前から取り組んできた。前日には図面を確認し、機械のスケジュール管理を徹底する。1日の始めには毎日朝礼で問題点などを把握するなど情報共有を欠かさない。機械の性能と人材の育成というハード・ソフト両面で質の向上を目指している。

今後の展望 内製化を進め、高品質と 短納期のさらなるアピール

設備投資と人員採用を進め、生産規模を拡大する。これまで高品質と短納期の両立を強みに、取引先から信頼を得てきた。現在外注する加工量は、加工量全体の10%〜20%を占める。今後は外注していた加工の内製化を進めることで、さらなる短納期化を図る。

今後3年間で研削盤1台、MC2台の導入を計画し、工場の技術者も10人体制を目指す。現在は、機械商社を通じて新規事業への参入も模索している。稼働率をさらに上げるため、電気機器部品の分野などで比較的小ロットの生産体制構築も検討する。



精密切削加工
製品の一部



材料を確保し、納期短縮

当社の歴史



平成2年、創業者は大手電機メーカーを定年退職後に創業しました。大手電機メーカーでは技能養成学校で講師を務めており、そのノウハウを金属や樹脂の切削加工に生かしました。平成3年4月には同メーカーと取引を開始しました。

取締役 西海 敏美さん

主な事業内容
金属部品の精密部品加工

主な取引先(納入先)
家電メーカー、自動車部品
メーカー

●住所 〒571-0043
門真市
桑才新町32-4
●TEL 06-6909-5060
●FAX 06-6909-5090
●創業 平成2年3月
●設立 平成2年3月
●資本金 900万円
●従業員 5名